

ダムや調節池はなぜあるの？

川の流れを安定させ、水害や水不足を防ぐダムや調節池

自然のままの川の流れは、雨量に左右され、たいへん不安定です。そこで、古くから人々は水害や水不足を防ぐため、堤防や堰などを造ってきました。昭和10年ころからは、それらの施設を別々に造っていたのではむだという考えかたが広まり、いくつもの役割を果たす多目的ダムや調節池の建設が計画されるようになりました。

多目的ダムや調節池は、大雨の時に

水をため、雨が少ない時に水を流すことで、川の流れを安定させる施設で、水害や水不足を防ぐはたらきをします。荒川では、昭和22年のカスリーン台風による洪水が、激しい水害をもたらしたことから、多目的ダムや調節池の建設が急がれるようになり、昭和36年度に二瀬ダムが完成しました。

多目的ダム建設のきっかけとなった昭和22年カスリーン台風による水害

カスリーン台風による洪水は荒川の熊谷市久下地先や入間川のいたるところで堤防をやぶり、大きな水害を各地にもたらしました。この時は、利根川からの洪水もあわさり、埼玉・東京の低地帯は海のようにになりました。しかし、下流部では放水路が完成していたので、出水による水害はありませんでした。



▲堤防決壊地点の様子 (熊谷市久下地先)

▲むかし堤防が決壊したことを伝える「決潰の碑」

カスリーン台風の際の雨量と水につかった所

洪水のひ害		
	埼玉県	東京都
死んだ人	101人	13人
こわされた家	3,231戸	187戸
水につかった家	79,502戸	112,960戸



カスリーン台風(昭和22年)より前に造られたダムは、用水の確保だけを目的にしたものなんだね。



調節池は平地のダムともいわれる施設なのよね。

ダムの統合管理

洪水やかっ水するとき、川の水を調節したり飲み水や農・工業用水に使われる水をより効率的に利用するため、荒川にあるダム群(二瀬ダム、浦山ダム、滝沢ダム、荒川第一調節池)をまとめて管理しています。

埼玉県内にあるおもなダム・調節池

■ ダム ()は完成年度

● 調節池

○ 荒川の統合ダム群



▲二瀬ダム



▲浦山ダム



▲滝沢ダム



▲荒川第一調節池

川の豆知識 水源地の人々の理解と協力で作られるダム

ダムは完成すると、広いはん囲の土地を水の底にしずめます。そのため、そこに住んでいる水源地の人たちは、長い年月にわたり働き生活していた土地をはなれ、別の場所に移転しなければなりません。ダムを必要とするみんなの願いを、水源地の人たちに理解してもらい、協力してもらうことで、ダムは造られているのです。



▲滝沢ダムの完成で、ダム湖にしずんだ集落。ここに住んでいた人は移転しました(浜平地区)